

『『小さな星』。♪君は私の小さな星だ。空に掲^{かか}げて輝かせているー』

ミスエンジェルは歌い始めた。

「どうして好きなの？」

セレナが理由を聞くと、ミスエンジェルはセレナを見つめて言った。

「私、一人一人は空の星のようなものだと思う。一番輝いている星ではないけれど、弱い光で周りの人々を照^てらしているの。それで十分。みんな平凡^{へいぼん}だけど一つの星なんだよ」

「だから、セレナ、君もこの世界で唯一無^{ゆいつむに}二の存在なの。誰も君に取って代わることはできない！」

